

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所かめさんち		
○保護者評価実施期間	R7年11月18日		R7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	R7年11月18日		R7年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月16日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもに応じた支援	○毎週月曜日の午前中にケース会議を実施し、こどもの様子を振り返り、行動に着目し、こどもの状態や行動の理由を考察し、配慮・関わり方・環境の配慮等を検討し、短期目標をスタッフ間で共有して対応できるように努めている。 ○療育前には打ち合わせ、終了後には振り返りを実施し、ねらいの共有及び検討をしている。	○活動後の振り返りの見直し、日誌や個別ファイルへの記録を改善することで作業の効率化を工夫し、今後の対応・ねらいといった次回の視点を強化する。 ○個別支援計画の作成に際して多くのスタッフが参加できるような会議を充実し、チームでの支援を実施し、氷山モデルや行動チェックシート等の書式を用いて分析の上確認、改善に努めていく。
2	保護者との連携	○送迎時に家庭や園での様子を聞き取りをしたり定期的に面談を実施したり保護者のニーズを職員間で共有できるように努めている。 ○活動後の振り返りにて活動の様子から成長の様子や今後の課題について共有できるように対応している。	○送迎時にこども対応のスタッフの他、保護者対応のスタッフの配置を配慮し、気軽に話しやすいように配慮していく。 ○相談をうけた内容をスタッフ間で共有し対応策を検討し、多様な対応を提案できるように専門性を高めていく。
3	支援の専門性	○個別・小集団・自立活動と集団活動を計画的に実施できるように、太田ステージ(認知発達治療の実践マニュアル)に沿って活動内容を検討し実施している。 ○応用行動分析、PECS®といった視点で一人一人に応じて必要な支援が提供できるようにしている。	○スタッフの支援の技術の向上のために、外部研修の参加、内部研修の充実等に取り組む。 ○こどもが「楽しい」と感じる活動を視点とし、こどものねらいやニーズを意識したプログラムを可能な限りチームで立案していく。 ○『行動』『支援』『結果』の観点で記載することで、支援を共有し積み重ねていくように、量や質を見直す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者やきょうだいの交流の場の提供	○活動後の振り返りの時間をお伝えしているが、保護者の負担にならないようなお迎えをご協力いただくことで、個別対応で振り返りのお話することも多い。 ○定期的な参観日を設けているが、保護者やきょうだいの参加のイベントの実施をしていない。	○保護者同士で話す機会を設けるために以前実施していた毎月実施していた茶話会を定期的に変更する。 ○利用中の保護者に保護者同士やきょうだい間や地域とのニーズについて把握した上で実施内容を検討していく。
2	活動概要や行事予定等の情報の発信の周知	○月に1度の月報にて活動概要、行事予定などをLINE配信、ホームページ掲載、用紙配布しているが、個人情報厳守から画像は控えている。	○個人的な活動の様子や画像や内容報告などは必要に応じて個人LINE等個別に伝えるように配慮していく。 ○ホームページの周知や保護者からの相談対応等、公式LINEアカウントの画面にてアクセスできるように改善していく。
3	心地よく過ごせる環境の提供	○こどもや活動内容活動に応じて、集中しやすいように環境構成を配慮しているが、使用するパーテーションや玩具遊具等の管理が不十分である。 ○クリニックに併設の事業所のためにトイレや集まり室が共有利用となっており、こどもにとって適したとは言いづらい環境となっている。	○活動や生活やこどもに応じて構造化を意識してスケジュールやタイムタイマーなどの視覚化、パーテーションの活用、人的物的環境を検討していく。 ○こどもにとって安心安全な環境となるように消毒や整理整頓に取り組み、快適に過ごしやすいような踏み台や目印などの配慮も行う。